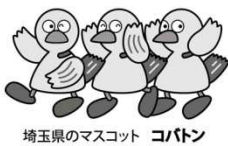


★毎月13日は県内一斉消毒の日です。消毒実施状況の再確認を！



令和7年8月発行 No.7-6（牛）
埼玉県川越家畜保健衛生所

電話：049-225-4141

FAX：049-226-9653

緊急携帯：090-7191-3473

Eメール：r254141@pref.saitama.lg.jp

（夜間、土日祝日は緊急携帯に転送）

家畜衛生だより

近県で牛ボツリヌス症が確認されました！！

本症に有効な治療法はなく、死亡率が高いため発生すると甚大な被害が生じます。下記の点に注意して、農場の衛生対策をお願いします。

牛ボツリヌス症とは

原因：クロストリジウム菌の産生する毒素

対象動物：牛

感染経路：菌や毒素に汚染された飼料などの摂取による
微量の毒素でも発症

症状：後軀から始まった麻痺が全身に広がり呼吸困難となる
食欲不振、流涎（発熱なし）、短期間に多数の牛が死亡

発生予防の徹底を！

✓飼料サイレージの適正な調整・管理

変敗したサイレージは牛に与えないようにしましょう。

✓野生鳥獣の侵入防止対策の徹底

ボツリヌス菌は野生鳥獣（カラス等）の糞便にも含まれている場合があります。

防鳥ネット等により、野生鳥獣の侵入を防止しましょう。

✓ワクチン接種

ボツリヌス菌の毒素に対するワクチンが市販されています。

ただし発症予防のためのため、接種後も上記対策をしっかりと行ってください。

疑わしい症状がある場合は家畜保健衛生所まで
ご連絡ください。



牛ウイルス性下痢(BVD)のバルク乳検査を実施します！

牛ウイルス性下痢ウイルスに妊娠中に感染した母牛から生まれた子牛は持続感染牛(PI牛)として生涯ウイルスを排泄し続け農場内で本病をまん延させる原因となります。

本県ではPI牛早期発見のため、半年毎に県内の全酪農家を対象にバルク乳を用いて、無料で検査を実施しています。

今年度、1回目の日程については次のとおりです。

【検査概要】

日 時：令和7年8月28日（木）

検査材料：バルク乳（家保職員がクーラーステーションで採材します）

検査方法：遺伝子検査

※バルク乳検査で陽性の場合は、個体を特定するために、
後日、農場で全頭検査を行います。
その際は改めて当所からご連絡します。

- ✓導入牛(妊娠牛の場合はその産子)は導入後すぐにBVDの検査を行いましょう
※販売用子牛も販売前に検査を行い、BVDをまん延させないように努めましょう。
- ✓BVDワクチンを接種して感染を予防しましょう
ワクチンには生と不活化がありますが、妊娠牛には必ず不活化ワクチンを接種してください。
- ✓PI牛と診断されたら速やかにとう汰しましょう

サシバエ対策によりランピースキン病の 感染拡大を防止しましょう！

サシバエの活動が活発な季節となりました。サシバエはランピースキン病などの疾病を媒介します。サシバエ対策を行い、ランピースキン病やストレスから守りましょう。

1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは
隅々まで！



牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、
カーフペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

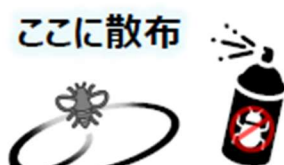


つなぎ牛舎は
バークリーナーへ散布！

2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2mは防虫ネットで
覆えるようにしましょう！
隙間や穴がないか確認を！



殺虫剤は
サシバエが飛ぶより
上を狙って噴霧！



殺虫剤はローテーションを！
噴霧量が十分か確認！

写真協力：鹿児島県内酪農家、(独)家畜改良センター宮崎牧場、住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社、エランコジャパン株式会社

農場から農場への感染拡大防止！

